

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	◎	－	－
	○	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少していく状況になるかもしれないが、すぐには元に戻らないと考えられ、厳しい状況がまだまだ続く。
	○	一般小売店〔青果〕（店長）	・11月の青果物の相場は、それぞれの産地生産物の状況が落ち着き、客の需要も高まると考えられるため、やや良くなる。
	○	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・ワクチン接種も徐々に増えているため、これ以上新規感染者数が増え続けることはなく、売上も徐々に回復してくると予想している。
	○	コンビニ（経営者）	・ワクチン接種率のアップに期待している。
	○	コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言のなかでも回復傾向にあり、新型コロナウイルスの感染が収束に向かえば、消費に火がつくような状況になるのではないかと客も感じている。
	○	コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言が解除されれば、現況より人の動きが良くなる。
	○	衣料品専門店（取締役）	・例年8月は売上が最悪な月であるため、11月は若干落ち着くことを望んでいる。景気回復になるとは考えられず、新型コロナウイルスの感染状況もあり、厳しい状況は継続する。
	○	家電量販店（店員）	・前年は特別定額給付金というプラスのメリットがあったが、今期はその部分の数字が解消され、悪い状況である。一方で、3～4か月の単位でみると、数字が徐々に上がっている。そのため、台風等で動きが取れない等、特別な理由がない限りは、少しずつの右肩上がりになると予想している。
	○	住関連専門店（従業員）	・秋冬がオンシーズンになるため、来客数が横ばいであっても、単価が上がるため、期待している。
	○	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・商圏内でも感染者数が頭打ちになってきている。これまで新型コロナウイルスに慎重であった人にも慣れが生じているが、ワクチン接種が進み、経済活動が活性化することに期待している。
	○	居酒屋（経営者）	・ワクチンの接種状況や効果にもよるが、店を開けて営業ができるのであれば、今よりも若干良くなると考えられる。
	○	観光型ホテル（総務）	・新型コロナウイルスの感染状況に左右される点は、依然変わらない。ただ、ワクチン接種が進むことを前提に、運営するホテルの客室稼働は秋の行楽シーズンの観光客利用が増え、レストラン利用客も回復すると予測している。
	○	旅行代理店（職員）	・10～11月はワクチン接種率が今月より高くなり、旅行需要もやや好転すると想定している。
	○	通信会社（企画担当）	・緊急事態宣言再発出の影響は、売上には響いていない。打合せのWeb化が浸透しているため、営業活動も業務自体もスムーズになっている。
	○	通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数が一時期と比べて減少傾向にある。
	○	通信会社（企画担当）	・光回線の提供エリア拡大が予定されており、需要増加が見込める。
	○	ゴルフ場（従業員）	・成人のほとんどがワクチン接種を完了すれば、コロナ前の状況に少し近づき、来場者も増加傾向になるのではないかと考えている。
	○	設計事務所（代表）	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少すれば、若干良くなる。
	○	住宅販売会社（従業員）	・ワクチン接種に様々な問題があるものの、接種率が上がっていくのは間違いなく、ワクチン接種が終わり余裕がある人は、旅行等に動くようになり、それに伴い金も動くため、景気は徐々に良くなっていく。
□	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況が、第5波となっているが、この先第6波、第7波と続くのであれば、回復することは考えられず、最悪の状況が続いていく。	
□	商店街（代表者）	・今後は、新型コロナウイルスの感染拡大次第で、景気に変化が出てくる。ワクチン接種が進むことで、多少は回復してくると予想している。	
□	商店街（代表者）	・ワクチン接種が終わっても、以前の購買意欲には戻らないのではないかと不安である。	
□	商店街（代表者）	・明るい見通しが立たない。	

<input type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・秋に向かい一層厳しい状態が続く。東京オリンピックが終わっても、いつものにぎわいは期待できない。また、緊急事態宣言発出により、新型コロナウイルスの感染が収束傾向になるかと予想していたが、祭りもなくなり、商店街には全く人がなく、先行き不透明で心配している。
<input type="checkbox"/>	一般小売店〔食料雑貨〕（店員）	・政府の有効な景気刺激策がなければ、今後も見通せない。
<input type="checkbox"/>	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・魚を安く購入することができないため、安く販売できずに売れ残る厳しい状態である。新型コロナウイルスの終息を願うばかりである。
<input type="checkbox"/>	一般小売店〔生花〕（経営者）	・これから2～3か月後は、この暑い夏よりもギフトとして花の需要が増えるが、客も新型コロナウイルスの影響で余り良い状況ではないため、今後良くなる見込みはないのではと懸念している。
<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	・クリスマスや年末年始の準備には早く、モチベーションがないため、厳しい状況は続く。
<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	・ワクチン接種の効果で感染拡大が収束していけば、回復傾向に転じると考えられるが、先行きが不透明であることから、現状維持のまま推移する。
<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染状況の予測が困難であるため、足踏み状態が継続する。
<input type="checkbox"/>	百貨店（営業担当）	・ワクチン接種は進んでいるが、感染拡大やワクチン効果への不安で県内外への旅行や帰省への警戒感が更に強まり、依然早急な回復は難しい。一方、店頭外のサテライトショップやギフトショップ、ネット受注は堅調である。また、店頭での客単価、商品単価は自家需要商材や紳士雑貨、リビング用品、嗜好性の高い舶来雑貨・時計美術工芸等も依然堅調である。しかし、慎重な行動と生活防衛は継続され、県内外との往来自粛により、物産催事に制約があり、回復は長引き自家需要中心の来店や購買は継続する。
<input type="checkbox"/>	百貨店（売場担当）	・百貨店での来客数が8月は78.0%であり、この状況が改善しなければ、売上は厳しいのが実態である。一部の店舗では、リニューアルをしており、若者に支持されているため、来客数はさほど落ち込んではいない。店舗により差別化が出ている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（経営者）	・新型コロナウイルスの終息が不透明であるため、客の動向や生活環境の変化が分からない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染拡大からの回復の見通しがうかがえることに尽きるが、現状では、先行き不透明で情報が少なく、まだまだ現状打破にはつながりにくい状況であると判断している。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・新型コロナウイルス新規感染者数は今後2～3か月では減少することはないため、消費トレンドや人流にさほど大きな変化はない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（総務担当）	・食品スーパーマーケットの景気は、コロナ禍の下では経済のファンダメンタルズといった観点からは判断できず、緊急事態宣言の発出や新型コロナウイルス感染者数の増加等、一般的にはマイナス要素が出る場合でも、巣籠り需要が喚起され、景気が良くなるという難しい景気判断をしなければいけない状況になっている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（経理担当）	・コロナ禍での生活であるが、感染者数が更に増加しており、先行き不安感とともに消費の減退が続く。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・ワクチン接種率と感染者数の相関関係が薄いため、もっと明確な心理的な安心感が得られるまでは景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当・店長）	・残暑が続くと来客数は増えるが、このまま秋がくれば来客数が望めなくなり、売上も伸び悩むと危惧している。その上、買上点数が相変わらず低いため、客単価も上がっていないのが現状である。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	・ワクチン接種が進めば、少し好転することも考えられる。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店員）	・秋には状況が改善されるのではと期待していたが、更に深刻化している。3か月後に改善されるとは、とても考えられない。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、相変わらず来客数は平常時の70%程度で推移している。緊急事態宣言の発出で、しばらくこの流れが続くと予想する。

□	家電量販店（店長）	・新型コロナウイルス感染の状況が落ち着かない限り、客の懐事情は好転しないため、来客数の回復は厳しく、しばらくはこの状況が継続する。
□	家電量販店（総務担当）	・年間でも消費が鈍化する季節に入っていくこともあり、今の社会情勢や市場環境のなかでは、ばん回策がなかなか見いだせない。
□	家電量販店（従業員）	・冷房器具の需要ピークも収まりつつある。
□	乗用車販売店（総務担当）	・新車販売台数に関しては、メーカーの生産が正常に戻らなければ販売店は打つ手がなく、お手上げ状態である。
□	住関連専門店（経営者）	・ワクチン接種者が増えているにもかかわらず、感染者が大幅に増加している。ワクチンが新型コロナウイルス変異株に対して効果が出て収束してくれば、経済活動も活発になると考えられる。
□	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・コーヒー業界について、2～3か月先の売上は、お中元シーズンが一段落したため、横ばいか若干下がる傾向にある。秋口から冬にかけて季節要因で、若干戻ってくるため、客は徐々に増えていくと予想している。
□	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・ワクチン接種は進むが、新型コロナウイルス変異株の影響で来場の戻りは遅くなる。
□	一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が長引いていることで、家食に慣れ、テイクアウトの需要は高いが、レストラン事業は大変苦戦している。
□	スナック（経営者）	・9月12日まで緊急事態宣言が続くが、8月末時点で新規感染者数や入院者数の減少傾向はみられず、緊急事態宣言の延長も予想される。飲食業の景気回復の兆しは全く感じられず、現状の売上がゼロであり、来月もこの深刻な状況は続く。
□	タクシー運転手	・ワクチン接種も普及してきたが、新型コロナウイルス感染者数の減少がない限り、景気の見通しが立たない。
□	タクシー運転手	・これからゴルフシーズンであるが、どこで感染するか分からないため、安心して業者指定してもらえない。
□	タクシー運転手	・ワクチン接種は進んでいるものの、新型コロナウイルス変異株の影響で、この状態が今年中継続すると予想される。
□	通信会社（統括者）	・秋に向けて、新商品が発売される季節になり、商品にこだわる客の購入は見込めそうではあるが、一般客の来店はやや減少傾向にあり、教室やイベントでの集客に期待したい。
□	観光名所（従業員）	・ワクチン接種普及と感染状況が相関しておらず、向こう3か月は動向が読めない。
□	競馬場（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減らないため、期待が持てない。
□	理容室（経営者）	・当県でも新型コロナウイルス新規感染者数が3けたになり、毎日増加している。先行き不透明であるため、客も不安になり外出自粛しており、来店日数が延びている。そのため、お盆明けから来客数が減少しており、明るい兆しがみえない。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・ワクチン接種は進み、高齢者の重症化は減少しているが、新型コロナウイルス変異株の拡大により、今後の見通しは不透明であり、状況によってはサービスキャンセルが再増加することも想定される。
□	設計事務所（所長）	・現状が変わらないため、結果が出る2～3か月先も変化はない。
□	設計事務所（所長）	・建築材料・製品や生活必需品の単価が今後も上昇しそうであるが、新型コロナウイルス変異株の感染拡大の影響もあり、収入は減少傾向になり、持ち直すとは考え難い。
▲	商店街（代表者）	・好材料が見つからず、先行き不透明感ばかりが募る。
▲	商店街（代表者）	・2年続きのコロナ禍で、小売業の売上は激減し、悲鳴を上げている。早く元の生活に戻ることを望んでいる。
▲	一般小売店〔精肉〕（店員）	・飲食店の時短営業や営業自粛要請の影響が続き、危惧される。
▲	百貨店（販売促進担当）	・緊急事態宣言が引き続きどうなるか不透明であるため、来店や購買に影響があると予測される。

▲	百貨店（業務担当）	・新型コロナウイルスは、ワクチン接種が普及すれば落ち着くと予想していただけない、その反動で感染拡大第5波に不安を感じる客は多く、買物には依然慎重である。先行きが見えず、これから更に新型コロナウイルスの感染はひどくなるのではないかと悲観的になっている。
▲	スーパー（企画担当）	・ワクチン接種率は確実に上がっているが、若年層の感染増加傾向に歯止めが掛からない限り、消費マインドの改善にはつながらない。
▲	スーパー（統括者）	・8月は全体で来客数が減少したが、1人当たり買上点数が横ばいではあったものの、1品単価がプラス5円になっており、客単価が増加し何とか売上を前年並みに確保している。今後、緊急事態宣言が9月12日までの場合は、9月は横ばいで推移し、その後はマイナス傾向と予測している。
▲	コンビニ（経営者）	・ワクチン接種のスピードは鈍化しており、新型コロナウイルスの感染再拡大の収束が読めず、景気回復は見込めない。食料品や日用品等の生活必需品の品ぞろえは継続するが、リアル店舗の縮小均衡が続く。
▲	コンビニ（店長）	・新型コロナウイルス変異株による、感染者の数がまだまだ増加傾向にある。
▲	家電量販店（店員）	・前月は、売上が回復しつつあったが、新型コロナウイルス変異株の拡大で来客数が前年の80%になっているのが現状である。来店客は、目的を持っているため接客しやすいが、それ以上の伸びがなく改善の見込みがまだ立たない。
▲	その他専門店〔書籍〕 （副店長）	・新型コロナウイルスの感染拡大が収束するまでは、厳しい状況が続く。
▲	通信会社（営業担当）	・緊急事態宣言が発出されたことで、経済全体が再度落ち込んでいくと予想される。
▲	通信会社（業務担当）	・緊急事態宣言により販売先の飲食店が閉まるため、販売量に影響が出る。
▲	ゴルフ場（営業）	新型コロナウイルスの変異株が再び猛威を振るっており、そのためレジャーや外食の機会が減少し、景気の持ち直しができない。治療薬が開発されるまでこの状況は続く。
▲	美容室（経営者）	・ファッション業界は外出する仕事が多く、外出自粛によりマイナス傾向になっている。2～3か月先は全く見当が付かないが、新型コロナウイルスの感染が収束しない限り景気回復はないため、ワクチンではなく、治療薬の開発に期待している。
▲	美容室（店長）	・新型コロナウイルス変異株の影響で、今後の状況が見通せず、景気が先行きが懸念される。
▲	その他サービスの動向を 把握できる者（所長）	・客先の受注状況が好転しておらず、経費削減のあおりを受けている。
▲	住宅販売会社（従業員）	・分譲事業は好調であるが、来場者数減少に伴う商談客数及び契約者数の減少が予想される。
×	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの影響で、昼夜共に来客数が減少しており、商店街での小売業の景気回復は望めそうになく不安である。
×	百貨店（総務担当）	・新型コロナウイルス収束の兆しがない。緊急事態宣言が発出され、飲食店や物販業界が非常に厳しい状況である。
×	コンビニ（店長）	・緊急事態宣言の解除がいつになるか、先が全く見通せない。
×	衣料品専門店（総務担当）	・現況の新型コロナウイルスの推移をみていると、感染拡大が収束するとは考えられず、今後もますます拡大することが予想され、景気は更に落ち込んでいく以外には考えられない。
×	乗用車販売店（代表）	・新型コロナウイルスの影響により、ますます悪くなる。
×	高級レストラン（経営者）	・様々な業種で値上がりをするという報道があり、景気が良くなるどころか、ますます見通せない状態になる。このままでは、店舗数が減少することで、人の動向もますます減り、今後を危惧している。
×	高級レストラン（経営者）	・9月12日まで時短営業要請が出ており、現状が少し落ち着き解除になるかは定かではないため、今後新規感染者数が減少しなければ延長になる可能性もある。企業では、テレワークでの業務も多くなっており、客の中心が企業のため、元の状態に戻るのがいつになるのか、全く先が読めず懸念される。

	×	一般レストラン（スタッフ）	・ワクチン接種が終わっても、新型コロナウイルスは感染拡大しており、安心できない。行政の対策は行き当たりばったりで、支援も後手になっている。このままでは、経営は成り立っていかず、深刻な状況である。
	×	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・新型コロナウイルスの感染力は増大しているが、対応策は変わらず補償もない。また、連休設定や、大型イベント開催で、感染抑制という気持ちになっておらず、仕事や人流の抑制につながっていない。さらに、感染力が強くなった場合などを想定すると、ワクチン接種率が目標数値に達成するまでは、緊急事態宣言を解除しない等徹底した対策を望んでいる。
	×	観光型ホテル（専務）	・新型コロナウイルス取束の気配が感じられず、従来は秋に多かった団体客が今年は入らないと予想される。
	×	都市型ホテル（販売担当）	・緊急事態宣言の解除が延長になると予想しており、先行き不透明で予測できない。
企業 動向 関連 (九州)	◎	経営コンサルタント（代表取締役）	・8月は最低の月であったため、これ以上落ちることはないと考えている。新型コロナウイルスの感染状況が変わり、まん延防止等重点措置が終わり、通常の生活に戻ることができれば、景気は戻ると予想しているが、そうでない場合を危惧している。
	○	食料品製造業（経営者）	・これから季節性のある商材の繁忙期に入るため、期待したい。
	○	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・9月分納品案件の予定量より判断すると、若干売上が良くなる。
	○	化学工業（総務担当）	・農業需要期に差し掛かってくるため良くなっていく。
	○	金属製品製造業（事業統括）	・半導体不足が解消の方向に向かい、ワクチン接種も進み、景気は上向くと考えている。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・我々の業種は、半導体の動きに大きく左右されるが、今後半導体の動きが良くなることが予想されるため、上向きになると考えられる。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	・景気回復傾向ではあるが、新型コロナウイルスの感染状況の影響で、もたついている状態である。
	○	電気機械器具製造業（総務担当）	・半導体関連の客からの発注予定があるため、期待している。
	○	建設業（社員）	・第3四半期に入り、発注が多くなれば、公共工事の一番の稼ぎ時である。下請の工事も踏まえ体制を整え、そのときに備えている。
	○	金融業（営業担当）	・新型コロナウイルス変異株が感染拡大しているが、ここ2～3か月でワクチン接種がかなり進むと予想され、消費者の行動も現状より幾分活発になる。したがって、3か月先の売上景気は、全業種で現状より良くなる。
	○	新聞社〔広告〕（担当者）	・衆議院選挙関連の広告出稿が期待される。
	□	家具製造業（従業員）	・感染者数が過去最多を記録する毎日が続く限り、仮に緊急事態宣言が解除されたとしても、ここ2～3か月以内での景気回復は見込めない。また、競争激化により受注金額は下がる一方である。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・以前は秋口になると商況も幾らか回復する傾向にあったが、この新型コロナウイルスの感染状況から、商社の動向は、今より良くなる気配はなく心配している。Web関係を十分活用し、売上につなげていきたい。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・受注量の若干の変動はあるものの、今までと大きく変わる事はない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・この先3か月の受注も好調が予測されるものの、材料や購入品が品薄状態になっており、今後の生産に影響が出ている。
	□	輸送業（従業員）	・九州は自動車産業が盛んであるが、半導体やコンテナの不足や北米航路の直送便が少ないことなどからブッキングが取れず、輸出が減少している。また、コロナ禍により輸入量も減少するなど好調な業界がない。
	□	輸送業（従業員）	・現状から良くも悪くも変化要素がない。
	□	輸送業（総務担当）	・今後も新型コロナウイルスの感染拡大状況で景気も左右される。ワクチン接種率が高くなる一方、新型コロナウイルス変異株の感染力の強さが際立っており、一進一退がしばらく続くかと予測する。秋口の連休や行楽シーズンの人の流れ、また、それによる物量も影響を受けるため、注視したい。

	□	通信業（職員）	・今年度の官庁では、施主の営業案件数と受注予想額が伸びておらず、厳しい状況が継続する。
	□	通信業（経理担当）	・新型コロナウイルスの感染者数増加は、ワクチン接種以外の効果的な改善策が見込まれておらず、引き続き経済活動が制限される見通しで期待できない。
	□	金融業（従業員）	・公共工事は災害復旧工事を含め高水準で推移しているが、新型コロナウイルスの感染拡大により、飲食店やホテル・旅館及び旅行業等では厳しい状態が続いている。
	□	金融業（調査担当）	・コロナ禍の収束がみえず、ワクチン接種の進展と治療薬の開発に活路を見いだしたいところであるが、閉塞感から景気回復の足取りは重く、当面は現状程度の推移となる。
	□	金融業（営業）	・ワクチン接種が普及すれば良くなると考えていたが、新型コロナウイルスの感染はむしろ広がっている。子供が重篤化するような深刻な影響が出れば、一段と冷え込む可能性も否定できず、先行き不透明で現状維持と考える。
	□	金融業（調査担当）	・ワクチン接種は着実に進んでいるが、新型コロナウイルス感染者は増加の一途をたどっており、足元では過去最多も記録している。緊急事態宣言も複数県で発出され、新型コロナウイルス収束の見通しが立っていないことから、景気は引き続き悪い状況が続く。
	□	不動産業（従業員）	・賃貸物件の売上が、横ばいに推移している。
	□	広告代理店（従業員）	・景況感、緊急事態宣言が再度発出された状態では、企業の前向きな投資意欲が出てくるとは思えず、少なくとも現状が1～2年続く。
	□	広告代理店（役員）	・営業の3か月予想は、今後2～3か月で上下する要素が見当たらない。
	□	経営コンサルタント（社員）	・外部の情報が入りにくく、当分は不活発な現状が続くと考えられる。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	・自社Webのアクセス数及び問合せ件数に変化がない。
	□	その他サービス業〔物品リース〕（職員）	・各企業は、新型コロナウイルスに対応する状況判断をしており、変動なく推移すると考える。
	▲	農林水産業（経営者）	・例年秋口は行楽や運動会等で外食産業中心にスーパーマーケットも伸びてくる時期であるが、今年は新型コロナウイルス対策で、どうにもならない状況にある。量販店向けも巣籠り需要にある程度期待はできるが、それでも従来ようにはいかない。今年も後4か月であるが、総じて前年よりコロナ禍で厳しい内容になる。
	▲	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大で、海外からの部品供給に影響が出ている。9月は客から4割減産へ変更になり、それ以降も現時点では不透明である。
	▲	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えると、生産にかなり影響が現れる。なかなか先が読めない状況である。
	▲	経営コンサルタント（社員）	・新型コロナウイルスの終息が見えず、不安しかない。
	×	農林水産業（従業者）	・九州の主力である冬春野菜の種まき・定植準備が遅れている。そのため、秋からの今シーズンは、出荷開始時期の遅れや、出荷の波が不安定になることが懸念されている。この気候が続くと小売価格も不安定になる要因となる。
	×	繊維工業（営業担当）	・今後、最低賃金も上がり、一層経営が難しくなる企業が多くなる。後手になっている新型コロナウイルス対策を強化し、早い収束につながることを望んでいる。
	×	建設業（従業員）	・企業経営の変革により、規模縮小となり、今後売上が減少していくと予想される。
	×	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・市町村の9月議会では、補正予算でも新型コロナウイルス対策に予算計上が多く、通常の調査や計画策定、設計等の予算計上が少ないことから、発注が減り受注できる機会が少なくなるおそれがある。このため、売上が減少し景気が悪くなると予想される。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・求人数はコロナ禍以前を超える推移をしている。今後この傾向は続くともみている。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	・消費の差し控えや、ネット通販の利用が増えており、自分自身もこれまでと購買意欲が変わっている。新型コロナウイルスの早い収束を期待している。

○	新聞社 [求人広告] (社員)	・新型コロナウイルスの感染状況次第ではあるが、9月以降の広告出稿の問合せも来ており、さすがに現状よりは回復すると予想している。ただし、ワクチンの接種は進んでいるが、経済活動が以前と同じ状況に戻るだけで、周辺の企業動向は活発ではないため、回復はスローペースだと考えられる。
○	新聞社 [求人広告] (担当者)	・ワクチン接種が進み、少しずつ経済活動が回復する。ただし、求人について雇用継続はあるが、再就職、再雇用は厳しい状況が続く。
○	新聞社 [求人広告] (担当者)	・新型コロナウイルス感染者数が落ち着き、各発出が解除されれば、必然的に移動や購買意欲が活発化し、また、ワクチン接種も進み、心理的にも行動の許容範囲が広がるものと考えられる。
□	人材派遣会社 (社員)	・新型コロナウイルス関連対応業務での求人数の動きはあるが、派遣登録者が希望する事務職種等の求人は落ち着いており、また、求職者も余り動きがない。明るい兆しの要因が見当たらない。
□	人材派遣会社 (社員)	・収束のめどが立たなければ、回復は見込めない。
□	民間職業紹介機関 (職員)	・業種によっては、積極的に追加で募集している企業もあるが、新型コロナウイルスの終息がみられず、幅広い業種で積極採用する企業も少ないため、しばらくはこの状態が続く。
▲	人材派遣会社 (社員)	・8月になり、新規感染者数が増えた影響で、勤務日数を制限する企業も出始めた。派遣先企業内でも、濃厚接触者が増えており、敏感になっている。8月の注文数は増えてはいるが、下旬になり、やや停滞感がある。
▲	職業安定所 (職員)	・新規求人数の増加傾向は継続しており、雇用調整助成金の相談件数は、ほぼ横ばいとなっている。しかし、まん延防止等重点措置の適用中にもかかわらず、身近でも新型コロナウイルスの感染が拡大しており、このままこの状況が継続するならば、雇用動向にも大きな影響が出てくる懸念される。
▲	職業安定所 (職員)	・新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されるが、前年度の求人数の動きから推測すると、若干の求人減少が見込まれる。
▲	職業安定所 (職員)	・新型コロナウイルスの感染拡大により、まん延防止等重点措置の指定地域となっている。このため、観光室が休館となり人流が減少し、主たる観光産業及び関係産業に影響が出ることが予想される。
▲	職業安定所 (職員)	・雇用調整助成金の特例措置が延長されたが、収益を確保できない企業の経営体力は、雇用調整助成金の特例措置が続いても、早晚、経営困難に陥る可能性は否めない。年末を区切りとして、廃業する企業も出ている。
▲	学校 [大学] (就職支援業務)	・新型コロナウイルス変異株により新規感染者数が増加し、日本各地で過去最多の感染者が発生するなど新型コロナウイルスの影響が続いている。ワクチン接種のめどがついてきたが、新型コロナウイルス変異株への有効性や感染力を危惧する声もあり、企業が業績の低迷から抜け出すには、まだ一定の時間が掛かるのではないかと推測される。
×	*	*